

✿ 「危険区域にある避難所は、避難先リストから外すべきだ」(宮津市)

宮津市は、高浜原発から30キロ圏内に全人口約2万人が住んでいる。高浜原発から30km圏内には約127,000人の京都府民が暮らしており、福井県の約54,000人を大幅に上回る。12月15日、避難計画を案ずる関西連絡会は、避難先が危険区域に設定されており、市民の安全を守る防災計画がないままで高浜原発の再稼働に反対するよう要請した。

宮津市の場合、兵庫県の避難先は3市(明石市・加古川市・高砂市)で、その内、加古川市の28カ所の避難所が危険区域。宮津市民4,731名の避難先だ。

兵庫県と京都府の市民5名と宮津市民5名が参加し、企画総務室長と防災課長・企画総務副室長に要請書を提出した。井上市長は脱原発宣言をしながら、議会答弁では「再稼働は国と関電が決めることだ」と発言し、一方で「(京都府隣接自治体との)安全協定が結ばれないままでの再稼働には反対」とも述べて迷走している。

避難所が危険区域であること等を宮津市は知らなかったが、「危険区域にある避難所は、避難先リストから外すべきだ」と回答した。また市が公開している防災計画には、兵庫県が避難先になっていることすら記載されていない。この理由は、「中継所も決まっていないうちで兵庫県のことまで言うと住民に混乱を招くから」とのことだった。

この後、議員とも面談。兵庫の事故時被ばく予測の数値をみて驚き、身を乗り出すように真剣に私達の話聞いてくれた。情報を伝え、運動を作っていく必要を感じた。(京都 スミス)

京都府綾部市民1,162名の避難所・たつの市「揖保川ときめきセンター」

「一人3.4㎡を確保」→ 実際には2.2㎡ 車椅子専用トイレは1ヶ所、冷暖房も期待できず



原発過酷事故の避難では自然災害など一過性の近隣避難とは全く異なり、命と健康を守るため、見えない放射能から逃れ、全住民が決められた遠くの避難所を目指すのです。

私達は11月27日に原発広域避難計画にかかる申し入れとして訪問した兵庫県たつの市で2013年6月に改正された災害対策基本法の認識も、遵守しようという意識もないまま指定された問題山積の指定避難所の実情を知ることになりました。

問題の施設は「揖保川ときめきセンター」という、京都府綾部市から1,162名を受け入れる予定の施設です。丘の上に立つこの施設は周囲が切り立った土砂災害危険区域にあり、危険区域内に原子力災害避難所を指定してはならないとする改正法令に反しています。

◆ 本当に2.2㎡/人のスペースに避難者を詰め込む積り？

担当課長は一人3.4㎡を確保していると胸を張りましたが、実際に視察してみると階段や機械室等を含めた延べ床面積で算出、メインの体育館には必要な通路の想定もありません。実質2.2㎡/人で、更に通路、要介護者・妊産婦・車椅子の方を考慮すれば横になるのがやっとです。

◆ 電気・水道・ガスなどインフラの欠如は致命的

施設のどこかでホットプレートを使い全館が停電した施設だそうです。築30年で各部屋の空調機器の補修もおぼつかない、トイレは4カ所で車いす用は1カ所のみ、炊事用スペースも無い状態です。冷暖房も送風も期待できず、トイレも炊事も仮設頼みです。

丘の上の施設へは狭く曲がった通路はバスがやっと通れる幅で、駐車場は狭く避難者のバスを収容できません。市町では人の受け入れイメージも無く、数字合わせだけの計画を県に提出したのではないのでしょうか。他の市町でも同様の事例があるのが計画の実態です。(西宮 bab)